

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
I	1	(1)	①理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・法人（株式会社ゼンショーホールディングス）全体の理念として「人や食との多くの出会いや様々な体験を通して生きていく力の基礎を育む」を掲げ、パンフレット・しおりをはじめ、園内掲示によって関係者への周知に努めている。従業員には採用面接時に説明するとともに、日頃から社内研修において理解を深める意識を持った取り組みをしている。保護者には入園面談時にパンフレット・しおりを通して理念や目標について説明している。 ・年初の職員会議では、理念や方針に加え、保育に対する考え方や捉え方、伝え方を指導し、年度末には総括を行う中で、次年度に向けて、理念や園の方針について全職員で再確認して理解を深めるようにしている。
I	2	(1)	①事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・当園は、株式会社ゼンショーホールディングスを運営母体として企業主導型保育事業として設立されており、グループ会社の人材確保や近隣市町村の待機児童数を把握し、グループ店舗の求人状況や労働環境を見極めに努めている。 ・毎月開催している園長会議において、グループ会社や地域の動向、事業経営、地域の児童福祉事業全体についての情報共有に取り組んでいる。 ・地域の待機児童や子育て家庭に関する各種の情報については、市の担当課などから提供される情報を把握している。当該地域は子育てしやすいエリアとして、「子どもを預けられるなら、働きたい」とする子育て家庭も多いことから、今後の保育ニーズも増えることを想定している。
I	2	(1)	②経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・当園は設立より4年が経過しており、4年間の経営データに加え、月・曜日毎に利用者数をデータ化し、利用者数の推移をもとにシフトの作成をしている。年度末には、それらのデータをもとに分析を行い課題を分析しつつ、次年度に向けて改善案を策定する流れが整っている。 ・登降園時や個別面談などの機会を通じて、保護者とのコミュニケーションを図りニーズを把握して、園（法人）としてどのような工夫が必要か分析した結果、「ヨコミネ式教育法」を導入することなどに取り組んでいる。
I	3	(1)	①中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・法人（株式会社ゼンショーホールディングス）として中期計画を作成しており、株式会社かがやき保育園にも該当（連動）する内容になっている。法人の事業方針として、財務体質の健全化、質の強化、周辺事業開発などが示され、株式会社かがやき保育園で作成している単年度の事業計画に盛り込むことにしている。 ・保育に関しては保育の質の向上を目指し、職員の意識を高めることに取り組んでいる。具体的は研修内容を充実させたり、「ヨコミネ式教育法」の理解を深めたりすることに力を入れている。さらに、園固有の年度をまたがる事業を明確にするために、園としても中長期計画を策定することを検討されたい。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
I	3	(1)	②中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・中期計画と同様の流れで、法人（株式会社ゼンショーホールディングス）運営会社（株式会社かがやき保育園）において、中期計画をもとに単年度事業計画を策定している。 ・運営会社で策定した事業計画をもとに、全体の計画や年間指導計画を策定しており、法人の定めた書式で作成されているが、保育の中期計画を分かりやすく反映することも望まれる。
I	3	(2)	①事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定例の園長会議では、事業計画の実施状況などを共有し、計画に対して各園の進捗状況や課題・問題点を議題として取り上げ改善点を検討することになっている。 ・話し合われた内容は各園に持ち帰り、職員会議で周知することで全園の従業員が理解できるようにしている。さらに各園の状況に合わせて実行できるよう柔軟性を持たせている。 ・単年度事業計画の達成に向けて、数値指標を定めるなど、成果が確認しやすい手法を取り入れることを目指している。前年度の反省を踏まえた改善点については職員会議において検討し、次年度計画に盛り込む内容を精査することに取り組んでいる。
I	3	(2)	②事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・入園面談の際には「ご利用のしおり」を用いて各種の計画（指導計画、行事計画などを含む）を説明し、理解を促している。また、必要に応じて、その都度お便りや連絡帳において伝えることにしている。保護者への説明については、さらに分かりやすく表現するなどの工夫を目指している。 ・広報紙「おひさま」「わんぱくだより」を通しても、日常的な保育や行事などを書面をもって伝え、理解を促している。大切にしている保育について、必要に応じて保護者に向け発信するよう取り組んでいる。
I	4	(1)	①保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修に積極的に参加できるように配慮しており、具体的には、勤務の付与、参加費・交通費の会社負担とすることになっている。 ・外部の研修を受けた際は全園で共有、各園で共有する機会を設け、他の職員へのフィードバックすることを定着させている。さらにテーマを決めた園内研修を実施しており、職員の資質の向上に力を入れている。
I	4	(1)	②評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・行政の行う指導監査によって指摘された事項については、適宜改善に取り組み、報告する流れが整っている。また、福祉サービス第三者評価は初回受審になるが、指摘事項については指導監査と同様の流れで改善計画を作成することになっている。 ・職員については、目標管理を基本とした人事考課制度を敷いており、目標設定や達成状況の確認などによって、職員一人ひとりの資質の向上と保育の質の向上に努めている。 ・開設後4年経過という園ではあるが、保育所保育指針に則り、「保育目標」「保育の内容」「安全への取り組み」「健康管理」「職員の質の向上」「保護者支援」「地域との連携」「運営」などについて、定期的に自己評価を行うことも検討されたい。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	1	(1)	①施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例の園長会や管理者を対象とした研修などに参加し、決められた各種の管理基準に関する認識を深め、それらに沿った園運営に取り組んでいる。担当と役割分担が明確になっており、職員会議などの機会を通じて役割と責任を伝え、園運営を担っている。また、園では園長は1保育士として業務もになっているため、職員とのコミュニケーションも図りやすい環境にあることがうかがえる。 ・ 園長は年度初めの職員会議において、全体の計画をもとに「子どもの自主性や主体性を育む保育の実践」を明確にし、園一丸となって取り組めるようにリーダーシップを発揮している。園長の役割や責任については職務分掌によっても明示されており、職員に対しては個別面談を通じても事業の方向性を示唆し園運営をリードしている。
Ⅱ	1	(1)	②遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育従事者として遵守すべき法令などについては、外部研修で学び園長会議での検証によって、園長などの経営層の理解を深めることに取り組んでいる。また、職員会議においても適宜議題として取り上げ、周知に努めている。 ・ 職員会議をはじめ園内研修を通して、職員一人ひとりの理解を深めることに取り組んでおり、気になることがあればその都度指導助言することになっている。 ・ 職員一人ひとりの主体性も尊重しており、子どもの主体性を尊重する保育を実践するにあたっては強制ではなく、一人ひとりが内容を理解したうえで実践につなげられるようにしているため、時間がかかることを認識している。
Ⅱ	1	(2)	①保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員会議や園内で適宜開催している園内研修、さらに外部研修についても参加しやすいようにシフト調整することになっている。また、グループ内の他園へのヘルプを実施することによって、スキルアップの機会を充実させることに取り組んでおり、外部で得た情報や課題は会議の議題として取り上げ共有を図っている。 ・ 「全体の計画」で掲げた保育を推進するために、園長は職員に対して日頃の関わりや定例の職員会議や保育会議を通じて現場の意見を聞き、さらに理念や基本方針に沿った保育を推進する旨を伝えている。 ・ 職員とは、目標管理をもとに定期的な面談に加え、必要に応じて面談を行いコミュニケーションを図っている。保育の質の向上については、職員の経験や認識などをもとに分かりやすく伝えることを心がけている。利用を希望する保護者の見学の際にも、園が目指す保育について伝え理解を促している。
Ⅱ	1	(2)	②経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 改善や業務の実効性を高めるために本社のマネジャー等と連携し、効率良く取り組めるように努めている。 ・ 園長は職場環境の課題について明らかにし、職員とのコミュニケーションを充実させ、具体的な取り組みを推進することでリーダーシップを発揮している。 ・ 業務の効率を高めることに取り組み、職員が子どもと関われる時間をより多く持てるような改善に努めている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	2	(1)	①必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の定着のため、働きやすい職場作りを心がけており、日頃より経営層と職員間のコミュニケーションを図ることに努めている。 また、半年毎の園長面談では、個々の希望や意見を吸い上げ、皆でお互いを思いやる体制を整えることにしている。 ・職員の採用については運営会社主導で実施しており、保育に対し十分な意欲と適性を持った人材採用に努めている。具体的には、勤務表や体制表、研修受講状況などをもとに、運営会社と連携して配置や異動などを決定している。学生の園見学も積極的に受け入れ、人材確保につながるよう取り組んでいる。 ・必要な人員確保に対して運営会社と協力して取り組んでいる。配属後の育成については、新人研修資料以外は各園の環境に合わせて育成計画を策定して実施している。
Ⅱ	2	(1)	②総合的な人事管理が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会社として人事規程を定めており、常勤職員については職員一人ひとりが目標を設定し、年2回の自己評価をもとに園長面談によって達成（進捗）情報を共有し、資質の向上に取り組んでいる。 さらに、本部マネジャーの巡回によつてコミュニケーションを図っている。 ・職員は法人共有の自己評価シートによって自ら評価を行い、シートをもとに園長や本部マネジャーと面談を行い、目標達成度を確認して研修参加を支援する流れとしている。 ・自己評価や面談結果をもとに、園長・主任・本部マネジャーが相談しながら異動・人員配置を行っている。目標設定や自己評価については研修で指導したり、個人面談でも助言して、適切に実施できるようにしている。
Ⅱ	2	(2)	①職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対しては年2回の園長や本部マネジャーとの面談を実施しており、一人ひとりの要望などを把握したり、勤務に関する希望などを聞き取り勤務シフトに反映させることに取り組んでいる。また、昨年より年末年始の時給アップや、負担軽減の一環として行事の準備やおたよりの作成などの制作、事務業務に専念できる時間を勤務時間内に別途確保するなど、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。 ・さらに勤務シフトや休暇の取得などは、職員一人ひとりの希望にも出来る限り沿えられるように、効率的な推進に取り組んでいる。 ・職員個々の目標設定については研修で指導したり、個人面談でも助言して、適切に実施できるようにしており、面談では課題を共有することになっている。クラス配置については職員の希望を把握して、出来る限り希望を尊重したうえで決定するよう努めている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	2	(3)	①職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・研修受講後には職員一人ひとりが研修報告書を作成し、理解度を確認したり、内部の研修報告会で講師を務めるなど、スキルアップの機会確保を設けている。 ・職員一人ひとりが設定した目標設定をもとに、園長との日頃の関わりや定期的な面談などによって、個別指導に取り組んでいる。さらに必要に応じて個別面談も行って育成につなげている。 ・年初には年度目標を設定する際には「目標設定は具体的に掲げること」を助言し、実践や評価しやすさを指導指針としている。 ・年2回の振り返りの面談や経過面談などを通して、職員一人ひとりの課題や成長に気づいてもらえるような助言を心がけている。本人が気づいていないことについても、園長が適宜アドバイスをするなど日々の業務の中でも指導を行うことにしている。
Ⅱ	2	(3)	②職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じて内外の研修計画を策定しており、職員の参加を促している。本年度は、外部研修として、「ヨガ講習」「救命講習」「メイトサマースクール」「保育施設事故防止研修」などを予定し、内部研修としては「サマースクールの報告会」としている。 ・当園の保育士は全体として経験が浅いことを踏まえ、定例の職員会議や保育会議においても、それぞれテーマを設けた会議内研修を実施しており、学べる機会を充実させることに取り組んでいる。 ・担当する子どもの年齢や役割などを踏まえて、実務に則した年間研修計画としたり、職員の特性を考慮して、取得した知識や技術を保育に活かせるような計画の立案に取り組んでいる。外部研修で習得した情報や知識を、他の職員にフィードバックする機会をさらに充実させることを目指している。
Ⅱ	2	(3)	③職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員を対象に、内外の研修に参加できる機会を年に複数回用意しており、希望に応じて参加できるようにしている。また、外部研修参加後には研修参加者が講師となる研修報告会を行い、他の職員へのフィードバックを実施している。 ・研修参加にあたっては、勤務の付与、参加費・交通費の会社負担などによって、参加しやすさに努めている。 ・新任の職員に対しては、定期的に目標や行動に関して園長が指導助言を行い、OJTの一環として取り組んでいる。
Ⅱ	2	(4)	①実習生等の保育に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・実習生を受け入れる仕組みを設けており、園長を担当として子どもの発達に応じた保育を学べるように取り組んでいる。ただし、認可外保育施設のため、問い合わせがあっても辞退するケースが多いことを課題としている。 ・現在実績がないことを踏まえ、専門学校・短大などに、直接依頼するなどの工夫が必要であると認識している。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	3	(1)	①運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報はホームページ、パンフレット、ポスターなどの媒体によって公開しており、あらたに理念や基本方針、保育内容になどの重要な内容についてはホームページに詳しく掲載して、誰もが自由に閲覧できるようにしている。 ・保護者に対しては、運営規程、利用規約、しおりを入園前の面談時に開示し、一部を園内に掲示している。また、毎月おたよりを発行し、規約や規程に改定があった際にはその都度書面と口頭で説明を行い、書面にて契約を交わす流れとしている。 ・日々の保育の様子などは、保護者が随時閲覧できるような掲示板を設けて情報提供に取り組んでいる。園内見学をはじめ、保育参観は期間を定めず随時受け付けるなど、いつでも保育の様子を見てもらえるようにしている。 ・事業報告書や予算・決算情報などについては、園内に掲示して閲覧できるようにすることも望まれる。
Ⅱ	3	(1)	②公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・当園は企業主導型保育園であることから、グループ会社の社員はいつでも情報収集できるようにしており、必要な情報はタイムリーに公開することとしている。財務処理については親会社の経理部署が担っており、園で現金などを出納するケースはほとんどない。 ・園の運営管理については、本社と園との役割分担が決められており、監査業務、事務、経理、取引等については本社扱いとしている。
Ⅱ	4	(1)	①子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の行事計画の中には園児に対して地域の社会資源を還元する機会として、「お花見会」「敬老会」「芋ほり」「ハロウィン」などを設けている。それらは地域の公園や店舗などとの協力を得ながら取り組んでいる。また日常的な散歩を通じて、近隣の人々と挨拶を交わすことによって、交流する機会としている。 ・保育講座を実施したり、園見学時に育児相談を行ったりする機会を設け、地域貢献に取り組むことも望まれる。地域の高齢者施設への訪問や地域の保育園、幼稚園との交流の機会を設けることも望まれる。
Ⅱ	4	(1)	②ボランティア等の受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの受け入れに取り組んでおり、特に行事の際はボランティアによるパネルシアター等を行っている。ボランティアの受け入れについても実習生同様に受け入れ基準などを明確にしており、受付、オリエンテーション、具体的な活動などが円滑に実施できるようにしている。 ・事前説明では、個人情報に関する取り扱いやプライバシーの保護などの重要な事項について説明し理解を促している。具体的には、園児の写真撮影禁止や細菌検査の実施などを説明し、受け入れ体制を整えている。 ・保育実習と同様、受け入れ態勢は随時とってはいるものの、現状ではボランティアの受け入れはパネルシアターに限定されていることを踏まえ、地域に対して積極的にアピールすることが望まれる。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
Ⅱ	4	(2)	①保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の社会資源としては散歩コースや近隣の公園であり、子どもの体力に合わせて複数用意している。お散歩マップなど保護者に提示して、近隣の社会資源の紹介につなげている。 ・市役所担当課、病院、児童相談所、保健所等の一覧表を作成し、事務所に掲示し、必要な時にいつでも連絡できるようにしている。気になる子どもがいる場合は保健所と連携して対処できるようにしている。 ・子どもに還元できる地域の社会資源の情報収集に力を入れ、子どもの成長・発達にとって社会資源の活用が有意義なものとなるように計画し、連携していくことを目指されたい。
Ⅱ	4	(3)	①保育所が有する機能を地域に還元している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の職業体験学習ができるようにしたり、AEDを地域住民が使用できるようにするなどして地域に還元している。 ・各種行事には地域の子育て家庭を受け入れたり、未就学乳児への育児講座や子育て相談を設けるなど、地域の保育ニーズの把握に取り組むことも望まれる。 ・開園4年目を迎え地域における園の認知度も向上していることから、地域の情報紙などの外部の媒体によって、園見学時の育児相談などについて知らせることも検討されたい。
Ⅱ	4	(3)	②地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	<ul style="list-style-type: none"> ・当園は企業主導型保育園であることから、ゼンショウホールディングスのグループ会社の事業所内保育所に特化している。よって、民生委員や児童委員から地域の子育てニーズを把握して、公益的な活動を行う機会を設けていない。 ・現在、地域ニーズの把握に努めたり、行政からの計画に合わせて地域の子育て支援活動に協力することを検討している。
Ⅲ	1	(1)	①子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・保育目標には「思いやりのある子ども」を掲げ、法人や園内外の研修を通じて職員の理解を深めることに力を入れている。毎月2回開催している定例の職員会議を子どもの権利条約研修や子ども主体の保育の実現に向けて指導する場としている。 ・子ども一人ひとりについて日々の様子や成長発達について話し合い、共通理解や認識を持つよう取り組んでいる。気になる子については関係機関への相談と合わせて、職員全員で成長を見守ることにしている。 ・法人内の他園への応援、外部研修への参加などにも取り組み、職員の意識の高揚に努めている。保育園は集団で生活する場ではあるが、出来る限り家庭の信条に対する配慮に努めている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	1	(1)	②子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した保育が行われている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「ご利用のしおり」ではプライバシーに関する項目を設けたり、虐待防止マニュアルを用意して、権利擁護に配慮した保育に取り組んでいる。虐待や虐待に類似する事例を発見した際には、職員会議で共有するとともに、必要に応じて関係機関と連携して対処する体制を整えている。さらに、着替えやトイレを使用する際には、羞恥心に配慮することにしており、防犯カメラの位置に配慮している。 ・園内研修を通じてプライバシーや羞恥心への配慮について職員への注意喚起を促したり、職員会議を通じて話し合うなど意識の高揚を図っている。 ・対応方法はマニュアルにも明示されているが、職員によっては理解度・実践に差があることを認識しており、理解と周知にむけて指導に取り組んでいる。
Ⅲ	1	(2)	①利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやパンフレットを通して企業主導型保育園であることをはじめ、年中行事、カリキュラム、保育料などと合わせて法人として独自に取り組んでいるヨコミネ式教育法なども合わせて伝えている。さらに、近隣のグループ店舗には園児募集ポスターを掲示して、情報の提供に取り組んでいる。見学希望者には随時受付をし、園長が説明書を使って対応している。 ・園のパンフレットは保育理念や保育目標、取り組みなどを写真も交えてカラーで掲載し、分かりやすさに努めている。 ・園見学はいつでも見学者の都合の良い時に受け入れており、午前中の活動時間を見学してもらえるように案内をしている。その際にはパンフレットを配布し、費用や持ち物についても見学の際に伝え、質問などにも対応している。見学後は質問を受け付け、地域の保育園として、いつでも子育て相談などを受けていることを伝えている。
Ⅲ	1	(2)	②保育の開始・変更にあたり利用者等にわかりやすく説明している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・入園にあたっては、しおりや説明書を使って園での1日の流れ、登園降園のルール、持ち物、緊急時についてを丁寧に説明し、安心して入園できるように配慮している。また、法人として個人情報に関する取り扱い規程を定めており、入園時に説明し同意書を交わしている。 ・保育予定の変更については直接伝えることを原則としているが、連絡帳にも記入し齟齬の無いようにしたり、文書を渡して保護者に知らせている。 ・利用開始時の子どもや保護者の不安やストレスを軽減させることを目的に「慣らし保育」に取り組んでおり、保育所経験の有無や保護者の就労状況などに配慮し、子どもの様子と合わせて期間を決定している。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	1	(2)	③保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所の変更や卒園（終了）にあたっては、保護者がいつでも育児相談ができるようにして支援の継続性に配慮している。また、卒園児については入学する小学校への児童要録の作成、提出をする流れとしている（本年度初卒園児有）。 ・ 余儀なく転園をする際には、転園先（県内外・市内外）によって対応が異なるため、その都度個別対応としている。また、個人情報保護の観点から、転園先への情報提供は保護者の指示または同意のもとに行うことにしている。 ・ 保育所を変更した際には、保育環境や子どもへの関わり・理念はどの園も多少なり差があるため、子どもにとっての継続性という面では十分ではないかもしれないことを認識している。
Ⅲ	1	(3)	①利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 登園時には保護者とコミュニケーションを図ることに力を入れており、家での様子、子どもの体調等を詳しく聞きとり保護者と共に検温し体調を確認の上、受け入れを行うことにしている。降園時には園での子どもの様子を伝え、成長を共有するなど、登降園時の会話を大切にしている。 ・ 連絡帳や園だよりを通して保育園での様子を伝え、保護者の意向確認を行っている。個人面談での要望は受け止め、必要に応じて組み入れ、職員間で共有し保育に役立てることにしている。 ・ 年度中、年度終わり、各種行事後に、保護者アンケートを実施し、保護者の率直な意見を把握することも望まれる。
Ⅲ	1	(4)	①苦情解決の仕組みが確立してお、周知・機能している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ご利用のしおり」には苦情や相談に関する内容を明記し、入園時の説明を通じて保護者への周知に努めている。園においての対応が困難な際には、グループ本社の社員相談窓口が担当する流れとしている。 ・ 登降園時に苦情などを受け付けた際には園長や主任の指示を仰ぎ、対応者や回答方法などを協議して適切な対応ができるようにしている。連絡帳に苦情と思われる意見が見受けられた際には、登降園時と同様に対応をすることにしている。苦情対応については、グループ本社の社員相談窓口とも連携して対処することにしている。
Ⅲ	1	(4)	②保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育やその他の相談について随時誠実かつ迅速に対応することを心がけている。保護者とのコミュニケーションを図る際には、話し合うスペースを確保し意見を述べやすい環境の整備に努め、常に信頼関係を築けるような関わりを心がけている。 ・ 個人面談や個別相談は、随時実施していることについては入園時の説明会などを通じて保護者への周知に努めている。便りや園内掲示によっても「いつでも相談してください」という旨を記載したり、登降園時には会話しやすいように働きかけるなど工夫をしている。保護者はホームページからグループ本社の社員相談窓口へ直接意見を伝えられるようになっており、利便性に配慮している。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	1	(4)	③保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・保育に関する相談は登降園時に直接保護者から聞き取って対応することを原則としている。定期的に面談も行っており、その都度意向や要望を把握することに努めている。これらの相談内容等は共有ツールで共有したり、月に2回ある職員会議において共有する流れとしている。 ・随時実施していることを園便りを通して保護者への周知に努めている。 ・園便りに「いつでも相談してください」という旨を必ず記載したり、個人面談では保護者が相談や意見を述べやすい環境づくりを目指している。また、現在、保護者懇談会は開催されていないが、ニーズを把握することも望まれる。
Ⅲ	1	(5)	①安心・安全な保育の提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・事故が生じた際は、ただちに園長に報告して指示を仰ぎ、合わせて保護者へも連絡する流れとしている。園内においては適宜ミーティングを開催して共有を図り、事故報告書を作成し本社に報告することにしている。またヒヤリハットを毎日記録することで、事故防止対策につなげている。 ・散歩コースの危険場所については警察・市役所の関係部署と連携して共有を図りながら改善に取り組んでいる。それに伴い危険マップ・散歩マップも作成しており、職員をはじめ保護者とも共有して注意喚起を促している。 ・毎月のヒヤリハット報告や園内の安全点検チェックなどを通じて、子どもの安心・安全に配慮した園運営に努めている。要因分析・対応策の検討にも取り組んでいるが、ヒヤリハット報告の件数が少ないことがうかがえる。
Ⅲ	1	(5)	②感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防対策として殺菌・除菌作用のある微酸性電解水を使用し、24時間超音波加湿器を稼働させ、手洗い後に手へのスプレー、玩具の消毒等を行っている。さらに、オゾンエアーによって24時間殺菌に取り組んでいる。 ・様々な小児疾患（手足口病、ヘルパンギーナ、NV等）についてのマニュアルを整備し、職員会議などを通じて訓練を行い職員への周知に努めている。 ・嘔吐処理方法や感染症流行時の清掃方法などの訓練を通じて、職員への注意喚起を促している。さらに、玩具を清掃した際の記録を残すことも望まれる。
Ⅲ	1	(5)	③災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月定期的に様々な災害に対する避難訓練を行っており、避難経路図についても園内に掲示して職員への注意喚起を促している。また、災害時や台風、非常時には、災害用伝言ダイヤルを活用することになっており、入園時に「ご利用のしおり」をもとに説明し周知に努めている。毎月の避難訓練を通して地震・火災に加え豪雨時の訓練を実施するなど、子どもたちに避難方法を伝えるように取り組んでいる。 ・食料備蓄を用意して、災害時に対処できるようにしており、備蓄品や食料備蓄品を必要に応じて入れ替えることにしている。災害時の対応・対策などを踏まえたBCP（事業継続計画）を早期に策定することも望まれる。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	2	(1)	①保育について標準的な実施方法が明文化され保育が提供されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な計画を通して、園が目指す保育、必要な育ちについて記載し、年間指導計画・月案・週案に反映させて保育を実践できるように取り組んでいる。 ・ 子どもの主体性を大切にする保育に関しては、取り組みを開始したばかりであり、職員会議などで検討を重ね「全体的な計画」にさらに反映させることを目指している。 ・ ヨコミネ式教育法を取り入れ、保育理念とともに学ぶ力・心の力・体の力の3つを重視した保育に取り組んでいる。子どもの自立を促す教育法であり、おたよりや冊子の配布、横峯氏の講演会も実施し、保護や職員の啓発に取り組んでいる。
Ⅲ	2	(1)	②標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月2回定期的に保育会議を開催しており、保育内容について話し合いを行っている。具体的には子どもへの関わり方を話し合い、職員間の共通認識を作り、クラスでの擦りあわせを行えるようにしている。また、園長会で各園の保育の様子・内容を確認し、各園にフィードバックする流れとしている。 ・ 保育の見直しや子どもたちへの関わり方・指導の仕方などで気になる場面が見られた際には、個別にヒヤリングをしたり改善に取り組んでいる。
Ⅲ	2	(2)	①アセスメントにもとづく個別の指導計画を適切に策定している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園前には児童票と健康診断票を事前に保護者に記入してもらい、個人面談ではそれをもとに心身の状況や家庭の様子、園に対する要望を聞きとり、職員間で話し合い、一人ひとりの子どもの成長に応じた計画作成に努めている。 ・ 児童票には子ども一人ひとりの詳しい状況が記載できるようになっており、職員全員で共有に努めている。各園児の状況の共有については定例の職員会議で共有し、指導経過期の達成度についても各担任が取り組んでいる。 ・ 保育所保育指針や園の理念に基づき年間指導計画を作成し、それをもとに月間指導計画・週案を段階的に立案して保育の実践につなげるよう取り組んでいる。 ・ 0、1、2歳児については、さらに詳しい個別指導計画を作成し、月ごとに領域別に記録し、次月に向け課題・具体的援助内容を明確にすることも望まれる。
Ⅲ	2	(2)	②定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月案・週日案の到達度については、定例の保育会議や職員会議において共有しており、見直しがあった際は柔軟な対応ができるよう努めている。また、年度末に振り返りを行い、次年度の指導計画への話し合いを職員間で行っている。 ・ 月案・週案での活動が天候などで行えなかった場合は、次月に変更するなど、その都度調整・変更をして1年間の中で達成できるよう図っている。年間指導計画の見直しは、4期に分けて行い、子どもの様子や家庭環境の変化によっては、保育会議や職員会議において修正を行うことにしている。 ・ 法人の本部マネジャーが定期的に園を巡回して指導計画の相談・助言を行い、園全体で課題などを明確にして見直しを行う仕組みとなっている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
Ⅲ	2	(3)	①子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・入園時の個人面談では、子どもの心身の状況や家族状況を把握することにしており、排泄・睡眠・遊び・言葉などの生活状況のほか、気になることや園に対する要望の把握に努め、得られた情報をもとに指導計画を作成することとしている。 ・全体の計画に基づき年間指導計画・月間指導計画・週案を段階的に立案して、保育の実践につなげるよう取り組んでいる。指導計画の作成においては園長が助言したり修正などを行い、最終確認をする流れとしている。 ・日誌や共有ノートで保育状況や子どもの様子を分かりやすく記録することに努めている。特記事項や保護者からの聞き取りについては、その日のリーダーの職員が把握し、職員間での共有を行っている。また、複写式の連絡帳を使用しており、保育記録として保管している。
Ⅲ	2	(3)	②子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育の様子は保育日誌に記載し、乳児については個別に生活と遊びの様子も具体的に記載することとしている。 ・発達記録として、乳児クラスは毎月、幼児クラスは3か月に1回記入し、年齢・月齢に応じた発達の様子を確認しながら、個々の姿や援助について記載するように努めている。 ・毎日、日誌を用いて記録しており、活動内容・記載内容を確認できるようになっている。また、子どもに関する記録はすべて施設できる保管場所で管理されている。職員間でも個人情報の取り扱いに十分に配慮している。
付	1	(1)	①保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて保育課程を編成している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・「全体的な計画」は、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。また、園の理念、保育の方針や保育目標などを考慮して「全体的な計画」を作成し、子どもの心身の発達状況や個々の保育時間、育てほしい姿を組み入れている。 ・普段から子どもの様子や状況等、職員同士で話し合い、その内容を会議で共有し、全体的な計画に盛り込めるようにしている。計画作成後は、今後やっていきたいことなどを日々の中で話し合うようにしている。計画は定期的に評価を行い次の編成に活かしている。
付	1	(2)	①生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・室内には温湿度計を設置し、換気をこまめに行うなど子どもが快適に過ごせるようにしている。また、マニュアルに則り衛生対策や清掃を行い衛生管理に努めている。 ・子どもにとって保育室内は過ごしやすい空間ではあるが、さらに遊びが発展するよう職員間で工夫に取り組んでいる。 ・玩具等の消毒については次亜塩素水やアルコールなどを用いて用途に応じた消毒方法を実施している。手指の消毒はアルコール系の薬剤を使用して感染症の予防につなげている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
付	1	(2)	②一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに伝える時は、具体的に分かりやすい言葉で伝えるようにして、子ども一人ひとりに合わせた言葉かけや援助をするよう心がけている。乳児は特に代弁をしたり、受け止めたりしながら接している。 ・個々の発達を理解し、欲求を受け止め、子どもの気持ちに寄り添いながら保育し、接し方については、都度職員間で話し合ったり、振り返ったりして子どもの気持ちを汲み取るようにしている。 ・子どものチャレンジしたい気持ちを大切に、たて割り保育の良さを活かせるように集団の中で年齢が上の子が手本になれるような場面作り心がけている。また、小規模保育の特性を活かして子ども1人ひとりの気持ちに寄り添い、ペースに合わせた保育が行える環境になっている。
付	1	(2)	③子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが基本的な生活習慣を身に付けられるように、一人ひとりの主体性を大切にしながら発達に合わせて生活に必要な習慣を身につけられるよう配慮している。 ・乳児は、登園時に家庭での睡眠時間を確認し、個々に活動・休息とバランスが取れるよう配慮し、眠くなった時はコーナーで区切り仮眠が取れるよう対応している。 ・食事、排泄、着脱、歯磨きなど、基本的な生活習慣に関心を持ち、子どもの意欲やその時の子どもの気持ちを大切に、保護者とは家庭の様子、園の様子を伝え合いながら、子どもの年齢や個々の状況に応じて進めることとしている。トイレトレーニングは個々のペースで保護者に伝えながら協力してもらい進めている。 ・園での約束事を子どもたちに伝えていき、それを通して自立できるような援助に努めており、「自分でできた」達成感を味わえるよう、言葉かけや見守りを行い、保育者が先回りしすぎないように配慮している。
付	1	(2)	④子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・自園には園庭がないため、戸外活動で積極的に体を動かす機会を設け、戸外では自然と触れられる機会を作るよう心がけている。自然の移り変わりや不思議さ等子どもが直接触れる体験が出来るよう心掛けている。また、朝・夕と主活動以外に子どもが自発的な活動が出来る時間を確保している。 ・子どもの「やりたい！」に耳を傾け、さまざまな体験が出来るように保育を展開するよう活動を考え、興味のあることをわくわくする活動につなげるようにしている。幼児は、自分たちで遊ぶ内容を決めたり、全員同じ遊びをすることで、協力する気持ちやぶつかり合いながら相手の気持ちに気付くよう援助している。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
付	1	(2)	⑤乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0歳児クラスの保育室は、ずりばいやハイハイをする子もいるため安全や清潔に配慮し、発達や活動によってクッションマットを敷いて過ごしやすい環境の工夫している。さらに、家庭と連携しながら子どもの生活リズムに合わせ、ゆったりと保育している。 ・ 0歳児の発達過程に応じて活動を取り入れたり、日々の生活の中でも一人ひとりと丁寧に接し、おむつがえの時には声かけコミュニケーションをとり、愛着関係が持てるように関わることを心がけている。月齢や発達段階に合わせた遊具や玩具を整え、さらに、1・2歳児との触れ合いや保育士とのスキンシップを大切に、安心できる環境作りに取り組んでいる。
付	1	(2)	⑥3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ひとりの自我の育ちを受け止め、じっくり関わるようにし、遊びや生活を通して友達との関わりをを広げ育むことを大切にしている。自分でしようとする気持ちを大切に、出来た時は喜びを感じられるような声かけをして援助している。保育室は遊びによって配置を変えているが、更に工夫をして自発的に遊ぶよう取り組んでいる。 ・ 行事を通して異年齢児の関わりや様々な活動を行い、互いを認め合えるような機会を設けることに配慮している。 ・ 送迎時の保護者とのやり取りや連絡帳等で情報共有し、一人ひとりの生活状況を家庭と連携を取りながら安心して過ごせるよう配慮した保育を行っている。 ・ 子ども一人ひとりが満足して自発的な活動が出来るよう自分でしようとする気持ちを大切に、排泄の自立や着脱、箸の練習など個別の発達に合わせた対応に努めている。 ・ ヨコミネ式教育法を取り入れ、自立を促し心の力・体の力・学ぶ力を育てている。
付	1	(2)	⑦3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの年齢に合わせて興味関心のある保育を行い、集団の中で友だちとの関わりを楽しんだり、行事を通して様々な経験が出来るよう取り組んでいる。職員は見守りながら必要な時に助言して支援している。 ・ 職員との信頼関係を大切に、各種の行事では子どもの意見を取り入れ進めることで子ども同士で協力し、子どもたちが自分の思いを表現できる環境の中、自主的に遊びだせる設定や働きかけを心がけている。 ・ 子ども一人ひとりの生活状況を家庭と連携を取りながら安心して過ごせるよう配慮した保育に努めている。 ・ ヨコミネ式教育法を取り入れ、読み書きの練習、かけ足、個人カード、逆立ちなど自主性を持って取り組めるよう、子どもの気持ちを尊重しながら取り組んでいる。
付	1	(2)	⑧障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障がいや配慮を必要とする子については、個別の指導計画を作成し、子どもの成長を見守る中で保育会議や職員会議において話し合い、個別支援を提供することになっている。 ・ 子どもの状況に応じて危険だと感じた時は検討を行い、安全に過ごせるような環境整備に取り組んだり、保護者と連携を図りながら見守るようにしている。さらに、時間はかかるが、できるようになるということを全職員の共通認識としている。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
付	1	(2)	⑨長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・保育時間の長い子どもも、自分の居場所を見つけて静かに過ごすこともできるよう、それぞれが落ち着いて過ごせるような環境作りに配慮している。また、日常的に異年齢交流を実施し、家庭的な雰囲気の中で子どもが楽しくくつろげるよう工夫している。 ・子ども一人ひとりの登園時刻から一日の生活を見通し、その子どもに合わせた保育に取り組んでいる。特に子どもが少なくなったときは、広すぎない空間を作ることで安心して過ごせるように工夫することになっている。今後のニーズを想定して、様々な取り組みを検討している。
付	1	(2)	⑩小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	b	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は小学校との連携の対象となる子ども（卒園児）はいないが、就学を見通して文字の読み書き等を取り入れている。 ・ただし、5歳児については就学を想定して、生活リズムの確立、小学校訪問や交流などの取り組みを計画している。小学校の授業参観に参加して情報を収集したり、要録の作成方法を学んだりする機会を設けることも望まれる。
付	1	(3)	⑪子どもの健康管理を適切に行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康に関しては、登園時の視診や保護者との会話で確認して職員間で情報共有を図り健康管理に取り組んでいる。欠席した子どもの状況（体調不良・ケガ、感染症等）を、口頭伝達や日誌に記録し、職員間で共有している。 ・年間指導計画には保健計画を明示し、健康や衛生についての指導・管理に取り組んでいる。既往歴・予防接種状況・感染症罹患状況などについては、常に保護者とコミュニケーションを図って情報収集し、漏れがないように職員間で情報の把握している。 ・感染症が発生した際は、玄関にその旨のお知らせを掲示し保護者へ周知している。 ・園内研修でSIDS（乳幼児突然死症候群）や嘔吐処理確認、AEDの実演指導などを学び、安全や衛生の周知に努めている。午睡時の睡眠状態は「睡眠チェック表」に記入して安全へ配慮している。
付	1	(3)	⑫健康診断・歯科検診の結果を保育に反映している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の健康診断と年1回の歯科健診を実施しており、診断結果において問題のあった時のみ保護者へ書面で伝え、歯科健診の結果は手紙で配布し、家庭生活に活かされるようにしている。 ・今まで異常値が出た子どもはいないが、出た場合は園生活でも生かすように準備をしている。（例：肥満児童が増えた場合は運動を増やす等） ・日常より分かりやすく歯磨きの指導を行い、日常の保育の中でも手洗いやうがいを通して健康の大切さ病気の予防方法について伝えるよう取り組んでいる。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b,	判断根拠・特記事項等
付	1	(3)	③アレルギー疾患, 慢性疾患等のある子どもについて, 医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・設備の都合でアレルギー児の受け入れは行っていない。 ・慢性疾患等のある子については, 入園時の面談や児童票で個々の情報を把握し, 日常的に保護者とのコミュニケーションを図り, 必要に応じてかかりつけ医と連携を取りながら安全に保育できるように準備している。 ・慢性疾患に限らず, 子どもの体調不良については全職員で共有している。
付	1	(4)	①食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・定例の職員会議や保育会議では, 子どもの喫食状態や状況を話し合い, 子どもの発達に合わせて量を調整しながら無理のないよう対応している。 ・年間指導計画には食育計画を明示し, それにもとづいて食育を実施している。 ・食育目標のもと, 乳児はさまざまな食べ物に出会い, 見て触れて味わって自分からすすんで食べようとするよう取り組んでいる。幼児は, 食事などを通して身近な食材に親しみをもち, 自然の恵みや感謝の気持ちを味わう活動を行っている。 ・食事は安心しておいしく食べられるよう職員も一緒に食べている。マナーを覚えながら, 会話を楽しんで喫食している。 ・調理員は喫食状況を実際確認して, 子どもとのコミュニケーションを図り, 次の献立に生かすようにしている。 ・献立は月単位で配布し園内に掲示して, 給食(食育)の取り組みを伝え, 保護者も食に関心が持てるようにしている。 ・衛生面では, 設備類では清掃点検に関するチェック表を設けて衛生管理に取り組んでいる。
付	1	(4)	②子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳児には個々に応じて調理の工夫をし, 家庭と連絡を取り合いステップアップにつなげている。 ・全体としては, 季節を感じてもらい, 楽しみながら色々な食材に触れられる給食を提供することを心がけている。歳時記にちなんだイベントを開催する際には, 食事においても楽しむことができるよう工夫している。 ・保護者には給食の喫食状況を連絡ノートで伝えたり, 引き渡しの際に食べれるようになったものなどを伝えて家庭での食事の参考にしてもらっている。 ・食材は基本的に安全性の高い国産を調達し, 調理には化学調味料を使わず鰹と昆布の合わせだしを基本としている。
付	2	(1)	①子どもの生活を充実させるために, 家庭との連携を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・おたよりや連絡帳, 登降園時の会話などを通じて保護者とのコミュニケーションを大切に, 成長の共有を図っている。 ・連絡帳では, 家庭での様子, 健康状態, 検温, 排便, 睡眠, 食事などの情報を把握し, 1日の保育の参考にできるようにしている。 ・各クラスには1週間の活動内容を日にち別に記入し, 保護者に園の様子を伝えるようにしている。 ・定例の個別面談では, 園の方針や運営について伝え, 意見や要望を聞く機会としている。個人差のあるトイレトレーニングや食事などの進め方は保護者と子どもの様子を伝え合い連携をとりながら進めていくこととしている。また, 保育参観や参加を通して子どもの園での様子を見てもらう機会を設けることも望まれる。

福祉サービス第三者評価 個票

【事業所名： かがやき保育園うしく

(保育所)

対象	分類	項目	細目	自己評価 (a, b, c)	判断根拠・特記事項等
付	2	(2)	①保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・登園時には保護者と子どもにあいさつを交わし、家庭での様子を聞き取りその日の保育の参考にしている。送迎時には対応する職員が子どもの1日の様子を伝えられるよう努めている。 ・定例の個人面談に加え個別に話や相談がある場合は、別に時間を設けてゆっくりと話ができるようにしている。保護者の話から取り巻く環境の把握に努め、気持ちを受け止めたうえで、園でできる支援を行うようにしている。 ・保護者の保育参観はいつでも受け入れており、一緒に過ごしてもらうことも歓迎している。さらに、行事への参加を促し保護者同士が顔を合わせ、互いの子どもの成長や家庭での様子を見ることが出来る機会を設けることも望まれる。
付	2	(2)	②家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待の早期発見については、登園時の子どもの様子や保護者と子どもの関わりに違和感や変化がないか、着替えの際に体のあざがないかなどの視診を行い把握に努めている。気づいたところがあれば園長に報告し、本部マネジャーへ連絡をする体制が整っている。 ・保護者との信頼関係を築けていることから、小さな変化に気づいたときはまず保護者との面談を実施するようにしている。改善されない場合は本部マネジャーが対応し、それでも改善されない場合はグループ本社の人事部が対応する流れとしている。さらに、必要に応じて、関係機関と連携した対処をすることとしている。
付	3	(1)	①保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a	<ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに職員自身で自己評価できる目標を作成し、毎日の日誌、週案、月案をもとに振り返りを行い、反省や改善点を出し合い、日々の保育につなげるよう取り組んでいる。常勤職員は年2回自己評価を行い、保育実践を振り返ることにしている。非常勤職員は年2回の園長面談時に振り返りを行い、今後につなげることにしている。 ・園長面談では確認や振り返りを行い、必要に応じて目標の軌道修正を行いながら意識の向上につなげている。また、他の職員の意見や保育を見せ合う機会を設けることでお互いが学ぶ機会となり、今後の保育に活かせるようにしている。